



# 活躍の場は海外へ

## 海外を知るとは日本を知ること

在英国日本国大使館一等書記官  
大塚 大輔



平成8年に総務省(旧自治省)に入省して以来14年が経過しました。この間東京勤務が6年だったのに対し、地方(青森県・長崎県)での勤務が7年に及びました。現在英国の日本大使館で勤務しておりますが、東京に帰任する頃には東京勤務の割合が公務員キャリア全体のおよそ3分の1程度になっていることでしよう。私の場合、霞が関の勤務だけではなく、様々な地域で様々な人、生活、文化に触れ、多様な経験をしたかったというのが、総務省への入省を選択した最大の理由と言ってもよいかもしれません。

大使館での現在の業務は、一言で言えば、英国の政府や議会などの動きをウォッチし、東京にレポートをするというものです。親しいイギリス人からはしばしば「日本のスパイ」と形容されますが、任国の政局、政策が、我が国や世界各国との関係においてどのような影響を与えるか分析する上で、基盤となる情報を収集、提供することは最も在外公館らしい業務の一つと言えるでしょう。こうした業務に総務省の職員が出向しているのは、海外の政治、行政の動きを観察するためには、バックグラウンドとして我が国の行政制度に関する知見を有しておく必要があるからです。特に今年、英国議会では総選挙が行われることになっています(この冊子が読まれる頃には既に結果が出ているかもしれませんが)、選挙の情勢分析をする上で、選挙制度を所管する総務省の職員の視点が強く求められているといった事情があります。

総務省の業務の中心は、国・地方を通じた行政制度の企画立案です。14年間の勤務を経て強く感じるようになったのは、国家運営の基礎となる制度には安定性、持続性が重要だということです。せっかく素晴らしい制度、政策を考えても、国民意識や社会経済の実態にそぐ

わないために破たんしては意味がありません。総務省の職員が海外を含む様々な地域で勤務し、現場感覚を磨くことが求められているのも、「日本」に精通した、地に足のついた政策立案のプロとして期待されているからです。海外で勤務することで日本とは異なる実情がいろいろと見えてきます。もちろん単純に見習うべきところは見習えばよいのですが、何故違うのかを常に日本の成り立ち、すなわち社会、歴史、地勢等に照らして考えることが習慣になりました。私にとって現在の英国勤務は、日本という国への理解をさらに深める新しい物差しを提供してくれる貴重な経験だと感じています。

本当は仕事のことだけではなく、家族で過ごす英国生活にも触れ、海外勤務の魅力もアピールしたいところですが、残念ながら誌面が限られているようです。いつの日か皆様とお会いし、私の英国体験談をじっくりとお話できる日を楽しみにしています。

### 経歴

平成8年 4月	自治省採用 自治省税務局府県税課
平成8年 7月	青森県総務部地方課
平成10年 4月	消防庁救急救助課
平成10年 7月	同 予防課
平成12年 7月	自治省財政局財政課
平成13年 1月	総務省自治財政局財政課
平成14年 4月	長崎県政策調整局政策評価課企画監
平成15年 4月	同 政策調整局政策企画課長
平成18年 4月	同 総務部財政課長
平成19年 4月	総務省消防庁総務課課長補佐
平成21年 5月	現職

## 国際機関の現場から

経済協力開発機構(OECD)科学技術産業局情報・コンピュータ・通信政策課政策アナリスト  
井戸 佳予子



芸術の都、花の都、食の都…。世界中の人々があこがれる街、パリにOECD(経済協力開発機構)の本部は位置しています。私は現在、その職員として科学技術産業局情報・コンピュータ・通信政策課に勤務しています。

OECDは現在、世界31の国が加盟する国際機関で、情報通信分野を始め、農業、教育、環境、エネルギーといった幅広い分野にわたり、経済成長、雇用促進、生活水準の向上を主な目的に活動しています。…といっても抽象的すぎてあまりピンと来ないかもしれませんので、もう少し具体的な業務内容をご紹介します。

私の所属する課は、主に情報通信分野の政策立案、規制、市場環境などについて、データ収集や分析、また、それに基づく提言を行っています。例えば、私は現在、次世代移動通信の発展とそれに伴う政策的課題について分析し、結果をレポートにまとめています。こうしてまとめた分析結果を各国政府の代表者が集まる会合で発表し、各国からの様々なフィードバックを踏まえて、最終的に完成させる、というのが業務のサイクルです。私自身、OECDの勤務を通して、日本を離れた立場から情報通信を考える際には、常に世界における日本の相対的な位置付けを考えるようになりました。また、国際機関で働くことの魅力の一つに、職場環境の多様性を挙げることができると感じます。OECDには、様々な国・地域から全く異なる経歴を持った人たちが集まっており、職場の仲間と意見交換することは私にとって非常に貴重な時間です。話題は、情報通信に関係するトピックから、政治や経済、週末の過ごし方や家族の話まで多岐にわたり、そこから小さな発見や違ったもの見方などに気づかされることもたびたびあります。

情報通信分野は、我が国ICT産業の国際競争力強化、通

信のボーダレスな性質故に国際協調が必要となるといった点から、総務省の中でも海外を相手にした業務に携わる機会が多い分野です。例えば、以前国際部で米国担当の業務をしていた際には、日本企業が米国で業務展開する際に障壁となる規制の緩和・撤廃を求める仕事をしていました。このように総務省では、グローバルな視点や行動力、世界に対峙して日本を考えるという思考プロセス、海外での人脈等、それまでのキャリアで培ったスキルや経験を活かすことのできる機会が豊富に用意されています。

上記でご紹介したのは、私自身の経験のほんの一部分にしかなませんが、実際に感じることを、考えることは人それぞれ異なると思います。霞ヶ関、地方、大使館にとどまらず、国際機関での勤務も経験したいというチャレンジ精神旺盛な方、ぜひ総務省へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

### 経歴

平成12年 4月	郵政省採用
平成12年 8月	郵政省通信政策局宇宙通信政策課
平成13年 7月	総務省情報通信政策局地域放送課制度係
平成14年 8月	同 郵政企画管理局経営計画課経営調査室
平成15年 7月	米国留学(コロンビア大学)
平成16年 7月	英国留学(ロンドン大学)
平成17年 8月	総務省総合通信基盤局国際経済課北米係長
平成18年 8月	同 情報通信政策局総合政策課 情報通信経済室課長補佐
平成20年 10月	情報通信政策研究所調査研究部主任研究官
平成21年 7月	現職

## 留学から学んだこと

コロンビア大学国際関係・公共政策大学院  
市川 のり恵



留学中は言葉のハンデで気後れすることもあるけれど、中身で勝負すれば十分渡り合えるから、何も心配することはない。これは、私がアメリカに出発する前に留学経験者の先輩からいただいた激励の言葉でした。アメリカに来て早1年半が過ぎようとしていますが、留学生生活を振り返ると、確かにこの言葉のとおりのような気がします。

現在、私はコロンビア大学国際関係公共政策大学院で公共経営学の勉強をしています。職業経験のある学生を対象とした大学院らしく、様々な行政課題事例に対し政策提言メモを書いたり、行政機関等をクライアントとしてプロジェクト評価や提言を行ったりと実践を重視した授業が多くあります。このような授業では、アイデアはもとより、系統立てて物事を簡潔に整理することが求められます。グループでの議論を経て政策提言を作り上げていく際のアメリカ人やヨーロッパ、ラテンアメリカ等からの留学生のディスカッション能力やアイデアの素晴らしさには感心させられるばかりですが、プロジェクトを計画的に進める作業やアイデアをまとめる段階では、日本人の計画性・整理する能力が重宝されてきます。プライベートでも日本人の計画性は評判が高く、パーティー企画を成功させるためには日本人を幹事に入れることが一番！というのが私の友人の口癖です。

話が少しそれましたが、留学生活で学んだことの一つは、多様性を受け入れること、そしてそれぞれ違いのある人・ものをうまくまとめてプロジェクトを成功させることの重要性です。当たり前のことですが、実際にやってみるとなかなか大変なものです。自分の物差しでは当たり前であることが通じないため、一から説明する必要があります。その反対ももちろんあります。他の留学生の考えの理解に苦しむこともありますが、それはこれまで歩んできた

バックグラウンドの違いによるもので、そのギャップを埋めれば理解は可能なのです。多様性を受容するということが世界各国からの留学生と対峙する場合だけに限りません。生活者の視点と叫ばれておりますが、公務員として政策立案を担うにあたっては、世の中には色々な人がいてそれぞれの問題なり背景を抱えているということをお忘れたいと思います。政策立案の過程では我々も議論に議論を重ねて作り上げていきますが、とすると専門家特有の一定の前提をもとに議論を重ねてしまったりする危険性もあります。また、"presidential persuasion"という言葉もあるように、多様性のある社会において説得により物事をまとめる力も非常に重要です。世界各国から集まった留学生を相手に自分の理解を伝え、説得することは、留学して一年半経った今でもまだ簡単ではありませんが、筋の通っていることは賛同を得られるものです。公務員を目指すみなさんには、枠にとられず多様性を受容する寛容さと、分散した多様なものごとを一つにまとめることの重要性を心にとめていただければと思います。

### 経歴

平成15年 4月	総務省採用 総務省行政評価局総務課政策評価審議室
平成16年 2月	同 大臣官房企画課
平成17年 9月	同 企画調査第一係長心得
平成18年 7月	同 人事・恩給局給与第一係長
平成20年 7月	現職